



1981
3

近世集卷之三

木



大りり山

大裏乃車

大

峯のりあり

大

湯門へ大

大

括るる大

大古母と書

大

大女の子

女形

大

下女へ又

大女也納女と

書あり

思ひ所為 かもめあり
思ひのあ 大炊殿とくく

れも乃人 近習乃人なり
おく海まわり 奥の車一々

おをりち 又おくちと
思ひ茶 也又世はきん

あー一説り
竹とあり唐子
二人の女乃塚
より生あ打を

又茅と云とこ
思原但八巻と云

おと海一 麻呂あせれ
ため小人飛と

おもわれ 足忘あくと也
思ひくき 甲んとうなる

おちり立 そとつれえ海
ありせと

思ひく海 思乃海き終也
老らく た冠えらくい
思ひ字なり

思あへて

思定ぬら落し

老くま

むととろへせ

折付物

折付物と書ひ

片の重しあり

折付とり

ゆるやうあり

折付とき口分

大若ち

大やう成神也

折ん年らう

折付之書年

海と書

大若翁

虫衣の姿也

折付物

折付の書

大振

折えらく

折もよく折り

おのゝ形

うつらき

るの折

折つき

苗あふ乃翁

里乃折なり

折付くたを

思下也

折くた

折不足あり

折く病のうへ

折みのそひ

折みき折れ

大なる折れ

折りあ

折実と云ふ也

老人ハうら

折付はひ

あり

大のちりあはれ 少く池也一

尺八寸右一寸

八分又ひらり

きよよ大小あり

お月とら 女郎苑乃色此

白苑く男郎苑

とつ小

ゆきな草 白双む菊形り

おやあー小 だよるりき

事なり

おとあひ ねとなくき也

あかなんち 大三端の袂

おのて ねくまにねふ

と云う落也

お落し物の目 笠物の付が

祿なり

ねりぬ 法皇御若入院

あり

大かりのち 祿赤乃曲也

ねとーむ すとらん形り

又ととーめい

中ーむかふ

ねいまうふ 老る形なり

思ひの家 火宅く

ゆそぬせ つらうりと云

ふあを

あをみふら あふら火也

あふとそき うすく東

あは火をそき

とつあせ

思ふこち ありあとうー

と云車し

お建りの せろりなる物

形り

おもあくて せ面目也又

おもはゆきん

ともあり

おうふ 老女乃名く

あひまいて 人の幸あけ

あひまいて くる車あり

あひまいて とき殿のす

あを

思ひきさす 思そめたる

也前字し

あんかて つか乃るり也

あきなうひ せらく成り

也又髪黄をよ

成あつと云

おもほえよ におえす也

お本ぬき 幣乃車形あり

あさものさや ちるさち

やと云すし

おもすこ 山の端と云也

おもすけて おとろひた

孔形り

おもたしむ めんぢくの

らく面立く

れりの 大摩子乃とを

の依膳あり

ねく志く 雄と一ふなり

あふれ 葉あとしやり

車あり

思乃さろふ 申れはくき

たふ祈なり

おほりうち 伶人の姓也

古祢氏也

おさ 衣織具也

お備 座席也

おさくし ああく志

き車也又お

さく志

ねハよくね

るりあ色用也

ねとの瓦 殿上乃うむら

ぬきあり大伝

なうて色殿也

ねとく堂云是

為くり乃色 女大后より
あゝさ袴の

こきく少の黒
文形り

おまけ
夢のやうなる
車形り

お原孫け
少のえあし
小孫と書ける

おかえ
たて乃より
摩あさ清り海
ゆる多形り

むく形や
老隠あり
ゆき三れ位
正三位あり

大うりき
きぬし男乃若
物也こう清き
女の若物也

たまへ乃海
西乃文れり
打包

お色山
毎懐の圃より
思ひ乃たき
又祈れ火

大利必窮尽火
城あり

大持しよ
うこひ酒之水
意小を括物よ

も二勺姫あり
お落する事
為髪乃車

行い乃男あり
お

為くり乃色 女大后より
あゝさ袴の

こきく少の黒
文形り

おまけ
夢のやうなる
車形り

お原後け
少のえみへ
小孫と書ける

おかえ
たて乃より
唐あやゆり海
ゆる多形り

むくねや
老隠あり
ゆき三位あり

大うりき
きぬの男乃若
物也こうゆき

たまへ乃海
西乃文れり
女の善物也

おま山
毎懐の圃よ
思ひわたさる

又祈れ火
不利ぬ窮尽火
城あり

大持しよ
うこひ酒之水
色小を柱物よ

も二勺姫あり
お落する事
為髪乃車

いかにかたし
255

也お家と云と

りよ

あふふ日と大とことりよ

頭なり

あ月乃ひゆたのふ曇乃

あ語あを

あもたのむり人ぬの接

衣形り

思ひの文火乃多れ衣也

紅利

あほめくあのうなるん

又くくふか

き車なり

おほふ人お軍とりよ也

お本忍小忌ときぬ人の末常とて家

と大忌乃云獅

と云し

と云し

お建つる月おくお打き

車一也

お建くしとあふと律と

おく又人よ路

ふよや

おそ

あをこれもうのもこの

と同車なり

伊さふゆ ねさるる川也
ねさるる鳴娘 ねさるるおれ

子なり

大ふさの 宿直するると云

形り

大ぬー 大長とつふく

おふとけ かねくとき

人あり

大江との 赤文海路乃時

乃猿籠り

おほく梅 曲笛よあり

おやこ茶 ゆり糸なり

お月よそ長 友人出仕の

衣なり

おのみ梅 大馬なり

おはるのみ 大藤乃名之

おのち 新舎れり也

下宿と云

おのひえ ぬれぬとて為

毎有なり

おひ舌出て ねえ葉等落

也物いるは舌

出なり

お落しこめ ねえとて海

うさる神あり

く

くま乃戸 業門形り

くふす 吉野乃くふす

とて人升ふく

圃柄と書也

くよ忍 帝言山ふのや

圃の業裏を

治院有し

くまをり 男孫よお忍

あて三月髪い

わき

くだよ 甲んさうの一

若也又若敷く

雲く乳 人逝き乃車

あま

久越よんむ かく八ハくる

くさのり也

くへりきハく

わりり五垣也

あーハ物こ

也くへあーハ

をむと馬乃物

食車よ漢里

雲くくれ子の

くく形り

や乃んを

くく形り

くふの初

山城懸原より

あり又何と書

穰雨と云なり

くまら

うさくふか

くまらよくた

所同事人

くめ乃若指

くまら山よ

有板耳其一云

至明神懸し指

也久米路乃指

世又つさき

ともあり

くろろき

志とけ方さ指

世方さうぬし

と續打を

は乃

女の袴れあ

形り

くうはきて

切し

く孫くしあ

きえ落也

くみらり

指量あり

くきた乃寫

菊田の関心

俗あはまくだ

といふとさく

をくふと云々

くら付く

ひよりこと

云ら路有利

くさり舟 ありたの神也

くさる 圃乃少勢いの

民なり

圃より 是も民ふせいの

有利

くほりき ささりぬふり

なり

くさてふ思 忘れく物と

ありふくも

のほれこさく

思みたり也

くさこもと里 名とり乃君

有利

くさくれし 後織戸内言

乗へ乃葉内着

二人の名あり

久礼波久禮志

ささゆし 井ノ葉奉所く

雲乃みよ 雲のぬきさん

也さの名尾

くさゆ 葉乃根よ有物

なり

くたけ 庭乃こさりの

ひきとも云

東圃乃たろわ

に在るなり

とつふなり

くまら

郭云あり

茶火燵

茶火のけふ

里なり

くわおろふ

たのくわ世

くろき霜

伝神小海霧

くわおろふ

唐子急さく

さぬ小急よ直

香なり

くわわ乃鳥

又位警のり

くす

形り位鳥と書

化おれ人也天

子とあくさめ

中一老なり

くまふ

口病病不審し

てはゆえ云病

あり

くらさた

同公也口定

くろきかき

黒紙服者の類

紙有利

くまふ

窮屋志げ家

之又昔志とも

くらみより見

裏白裏層

紅の色を素

くまふ

臭水為な

との車也

くたくあう 細碎車也

くちきりく 方角とれよ

多車あり

くちとく 口乃さときく

口利と書

くすたま 菜玉端牛よ余

と近親る

仕付也

くたき せんちく面掛

圃打り

くゆき 後悔也

くらりろりる くらりく

玉く物云なり

位りく 位の中き也

くきんひ 様字之記物

ともらんと所

くすきんひよ

せんとの竹ふ

とあり

黒めくせ 鏡色之服者善

竹利

くろき木下 服者乃裨衣之

くろ木乃屋 仁徳天皇御

時能初也皮付

本也何芽也

之本よりの
と云本也是と

黒きれき

くろめんさ

りたれ付る

とりのり

雪川み

雪の事

くふけりみ

地祇乃

也山主

形あり

くくへる

契斎祭の

くひ

くやしふく

ひのやちたひ

と積也

梅子八子

くま

呉國より

竹之

とりのり

くら

同也

日本記

くら

服者

くら

車

あま

くら

はさ

くら

付圃和

くさあろる色 せすて人の
うれと博亦也

衣之懐述也又
草此稜同矣

也の拳 乃り小雲乃り

也菱乃雲のみ
稜形り

草のなぐ 露液此西とく

なるまはあり唱
露千後乃葉と

く後きりて他全 八ささま
あまは也

はぬく家屋之

くらめ 奥之釣ん里の

乃り奥之

系乃き乃銀 蛇尾より銀

也日本民草野

火よ會給時よ

ひうひ火志と

れつる気也是

より系乃きの

きんと云

くるがー 決里を里矢し

時竹原よ成た

分指形り

くつて 皆乃代也郭云

せ
とくつてさひ
とつりと云子ゆ
ありとつりひ

くら木書
あともや
繪乃志さくさ

くたさ山
くはうくさ
去依の圃より
は圃之黒穿

くまりこ
え月小屋種白
散と童女小掌

そめさせて天
室守食之菜子
書之未嫁女と
也とそと酒よ
入てのまひむ

くふ
麻布方とよや
みたけ公介素
雲乃と神
呂やれと電く
まて形り

くさかた草
くくはとら
花と拍する

た利
た利

くら笛 うそくくも也
葉乃悉ひく

くちくゆき 民此君あり

圃乃植 圃主乃植り之

くさとも火 香れはるま
のあをを越て
仍と云あり

くまらり 又月又目麻
り子と云又而

茶ととるるり
と色り小

高き浦 世乳のりと云
く海くくま とあよくま

たるあゆみ
くをの名 権子樂の頭也

高くか若くほ
たあといあこ

くたつ野 冬の野なり

くさうなと 霧乃若打を

くあとの袂 芦原中は圃
のほりひ乃袂

くさの人形 萱あて色木
あての地也

廿九

くさき 毛人瓶也
ねりりり入家

所始り草屋

くさの地 不生しとてぬ

くさの地 木々名那り

くさの地 木々名那り

云々里直り

草乃者 木芥と云物也

くさの地 木芥と云物也

綿奈り

くさの地 綾乃名之雲鳥

くさの地 菜那り

くさの地 白奈

草のいせ 系縁と云物也

くさの地 非切宜佐腰

くさの地 ころみ那しる

くさの地 乃君那り

くさの地 ぬま人丹実否

くさの地 玉起清と云可

くさの地 いるり天原界

くさの地 乃くりあら清

くさの地 け連ハとあり

くさの地 くら介あ七夕

くさの地 小漢あり

くさの地 くら介あ七夕

車乃紐 くら介あ七夕

車ハハ 一也消也云

車ハ志と孫 發也之

尚と重ぬる 女の他姪と

新時男乃皆と

りさぬるとく

車屋形 車蓋と書あふ

くさまのりも 輪乃くさ

くささ 行平素

くさい 圃忌天子又の

色小衣給る

形り

車ハハ

や

車ハハ

車ハハ 仙人好り

車ハハ 三月也孫生

車ハハ 馬の尾と織麻

車ハハ と遊く

車ハハ 車ハハ

車ハハ 車ハハ

車ハハ 八十氏人の氏

車ハハ 姓乃車原き之

車ハハ 秋也乃乃の妻

車ハハ 也うつハ之

く山終ハ秋也

鳥や不秋那り

そ又の平浦之

秋の舞姫那り

次弟く小次

く人海那り

やふけん

武士乃ん不利

やふし

世とのくまた

於人也野伏也

曰奇あま

やうらよ

やぬらうなり

やうらよ

逐之目本祀

又遊おり也也

屋らふとも

ふとも源也

やま世終と

やらひやり

りふなり

山里のく

山里のく

せい中一きん

あま

ふりい

言源よ山も

刀之ぬを素山

形尽と書

やむせぬ

ともす連らか

と云ら語那り

やみて 庵くありてと

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー やあせそ

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やみかゝあー けふふふあり

やたゝの目乃車形り
屋よやまて やい志る

海てあや

や中隠物志けま法也

志ハ五字利

山まゆ

志山と何るハ

て肩小似る

とワ小利

山ろ

あろけきの雲

のり也和ふ之

やもめ草

菊乃可人子ぬ

あり

やそ律乃とてあ原まふ之

律成之金そハ

八十也

山鳥尾乃鏡

をのまき首

と見て唱取也

や片橋

ろく柱律よく

せんたぬり

ぬ尻とすらひ

小入取也付取

くまてと云

大和玉一わ

目本乃めあ

りなとりの

車形り

山まと鞍

まあそく

山田の持う所
と云あり

山下をよみ
山乃祓と云し

也海ひこ
本玉乃於之の
き打を

也まく海
地うけ也海と
尾よ一乃

長とありあま
を云あ海のこ

つ尾とあり

也まと高
日本乃重く
大和嶋根口

也らこのこ
寺ま也八
懐又師を

也ふいのこ
たぐ柳新へ

也あ
風若あり

也あんふ
めあいなわ
袂祓へ八尺乃

也あ
鏡行利
矢のしく早
くひあたり

柳の衣

柳花の付たる

あろも形り

屋正乃便利

天川乃了り

也天照大神住

孫とらる云

山のそりい

りこそそい

やまらくさ

菊なり

山乃り花のぬかき草あり

や海と川 物津河乃来

立田川乃落合

所形あり

山平ら

王の立里水伝

洞山乃字二句

姫打白

山や死する 海八塩入て

山は言わると

云ふ也生死也

若のたと八也

やうり

見孫あり奉

やとうり乃漢 産ん八面目

乃漢之唐より

や所あゝの稲

大なる稲

八穂稲也

やま井

屋ま雨井之山

蓋と書

おつらふ小晴 鳥丸山若越

やまの丸の唐 瓦乃海之

なるあま

山に舟のあ

山に舟のあ 古より

足念也むまの

事の后不利

や海より 根人也木之造

有那り

やまはと やまの祓也

やまの相 足柄乃の祓也

夫と対立に向

也或去と有祓

也湯本と云ふ

みあり

柳のいふ蓮 柳水より浮

たる之稲造

似ると有る

山のぼろり きー乃まへ

やまのあーき りさつ々の

る也

山のくき 山乃根之岫と

書け利

登さり忍 やらぬなり

やいし も乃らとせす

八手山 うんたぶた

八重山 八つさなり也

源公と云

やちちりの 木北君あり

やち乃維 いよくて

芥菜と云

灰多けき

やまふ 我圃なり

やのまぢ けくー也

やのち ちりりちあり

やけらま 我と云

やまとまひ 又苔の舞也

やぐまきき わらり

ふじーま

きあ

屋そくま 隠お月文取

やよふれを いよくて

まはあり

屋すゝ 女乃君なり安

忍と書

山のたとり ぬり也

やまふ 峯にけとも

やくら お雲乃圃なり

やちや 祢乃名也八子

やさうらひ

めともいふ也

やのほの祢 家祢へけ

とらけ神也云

やと万乃祓 祓祓也八面

万祓と書打也

全今の司 宰相と云後拾

遺の序小あり

中乃た三 家乃くみ也

中一海 日本國八の崎

なるにありて

のふ利

八平てよと心 拍八又祓

供と備形り

やと見念 八方乃必と志

不車一形り

まて二具之

まてハ禊之

こ介とと菴也

とほくあし海

取之縁あり

ゆたぐ

ともし火風よ

とて動目と

たぐくやうへ

まふとわ

客人と家主也

海うと

主人并姓なり

まはる 肩ふる又まみ
乃わさ里た云
海也 門柱二五と云
海うち君を 心記て物へ
まーり 汝り也我と云
ふ也 心也
海うち君を 云辨乃るり
まーり あり丈夫と書
まーり あり
まーり あり
まーり あり
まーり あり

松葉とるて 松ハ葉と念

也正記てとる

好入於河沙門

隠士初好り

まま此山を 宇治の猿尾

山をり

まめ人 去人也海ニ空

しふ人也まめ

だらてとも云

まめすみ 美実形り

海さく利地 ありてあり

物不素

まめすみ 眼の定るり

あまのつみ

也又めのひと

みの車一云

まごりの成 いほた不綱

ななり

松乃おい未 松の生未

またより 木以授より

海神入 うつくりき神

あま

まより 鴉乃よりまより

まかづる 白鳥あり

まよりよ姫 唐への人と

あまひて松浦

あまのつみ 山あまのつみ

あまのつみ 新入あり

海さきく まよりく

まてのく まての蛤を

具あま

まてより 是日二またよ

あまのつみ 志さゆりの

貝へいほり

と指あり

海とゆく 月之あてら

ぬまなり

ほてふ まてと云ふ

海うて 宗福有り

まよりく 海く也

三十一

海を舟の原 尾をよと云

麻乃の海也

海は ともやく之又田

たよと云の舟を

きんをあり

花の祓 まくらと云祓乃

花を打を

まーら 穢祭り

まーこ 同さるこ

海一さす 本乃花とさ

てををあり

まーらひ まーらり也

海一舟の君 低志云

海一の舟 兼進なり

まけらる ちくなくね也

曲と書

まくらあも 花云也ま

系なり云

海かし 眼波なり年よ

まはら海見落

入しまりふら

たのくとも云

またり 祓重し心季

ふかると祭也

まらりと 世中乃まらり

二宅はなと云

まゆ録とさ 人よ返らぬ

時負りゆき也

まゆつゆり

ともゆり

まへ乃とく 世男のたこ

ちひな利

ますらや 男れりあを

ほすくの鏡 正みたる也

美法鏡と書

ほくきりり 東薊れり也

ほかろし 差乃やうなる

子林通成車

ととゆりなり

ほと成の衣 透るる衣之

移え乃て向 松小不活鏡

紅葉と折てた

ひらねと云也

まのちりのこ 命たるなり

車一のま去方

路小あゝ正去

砂地打也

ほろふ 心籠ゆき車也

乃あゝまあゝ

ほろふな利

まゝたき 母乃君之

まくぬふ地 如影くし

お祈とすると

のしけ虫繩乃

ゆくひくめき

とあやま

花ゆくとや 花ゆくとや

まらまらく かくろり福之

高金吹

まがめお人まらおりく

うつらうつらきと

云又うぬり

くくわ世云

はななうぬ まんああ

ぬあり

まらりりりり

まあく時なくひまなく

あや

まとな まらるく病なり

あなと書

海さりる 草あや

まらひりー ひりー乃又

ひりー也猿底

と書あり

まろ わまあり

まらわらり ともふ人れあ

らりを初海

まらみ 紅葉に於地

ますあのを 穂よかて心

秋色の月なら

まの平乃系花

まはり月 卯月と書て續

海く乃てこ 昔亦よあり

々家女の若也

まろふ 朱井車也

海さなき ちや海成へ

花はく 小花とて花の

まよと 上よ有物へ

海きもく此ひ原 大和よ

あり等向持原

と書なり

まのち山 駿河赤打の月

けを

海や乃なり 鳥取也新語

とひふ

まろりて 乃袖まく里へ

海うらめし 後世の乃也

まはり月 中月肩よ似へ

花よまき玉 花よすり月

海うれ 草也物別る

まの茶芥

海あも乃教へ 去云那り

まいこん 美らん也めり

こんと利

まごきん

まごわらわて

まごきん

と云利

松なぐさ

坂あり

まらく

まらくまらり

まらくん

指越て約ん

まろく

ほうしなり

まゆめ

女乃名なり

まけ

用水のたぬ

りぬへたる海

ぬり

ぬらと形り

まおぬ

まおぬと略

まおぬ也ま

小同家

まうか

海しくふり

まのり

なまなり

まのり

紋るなり

まのり

旅の車人

まま

あまし鬼也

あまし人

まあなり

ぬら

あらし也

まのり

ぬり永目也

ぬそゆ

よき結ふて

多の幣也

まのり

たらしふを云

舞

まめ けちり人あり

まね取 毎とくまと云

海うれつか 祿殿の柱に

くくとうひ

片かよして木

を引とひふく

海たろ衣 班衣と書と連

於衣た積へ海

まろく念回分

まゆりの被 ありひこの

ふま海なり

海くくかき 枕上ハすこ

ますくくくくひ物あり

まろおとめ 物と於女に

けよ姫よあう

ま松浦をとめ

まひはせん 海ひあひと

けろり人 船目新目等と

けよ形り

まき度 葉あてもりく

あくとつみま

りーくると云

まろぬ 松井形り

け

きう の中へひ旅ん

あや又けすし

けさうしと 我れとけく

うふけり

あふけりん きくふえ

きえよと也あ

あひあめんせ

志取しと云ん

又物乃らひめ

をりふ有利

きよふりあ

きく付也清之

あしれ乃書 護摩小苺子

結目駭仙宗

とたく有利

けらて きえてあや

けらてき のさうり成

所也らんそか

於りり

すらまなる

まうぬいあん

那り又けうと

き物とと云る

たうり云

忍助新を素

けそしけ

けさけい

けそく 子のうのそら

あを又けすし

ききえ落形り

けきうしそ 我れとけく

うふ形り

あふんげかん きくふえ

きえよと也あ

あひあやんせ

あちめ入 去れしと云ん

又物乃らひめ

をりふ利

けさやう きよぶひあ

あ積付也清ん

あしれ乃書 穰磨小苺子

張
目
録

とたぐり利

けらて きえてあ

けらてき のこさうり成

あ也らんそあ

あ子りえ

けやあし すんまなう

あさゆいあん

あり又けうと

き物とと云る

たうりよと云

けそしあ 忍助あをま

けさはうー ささりーき

けそく 子のこのをら

けせう

入物也記足
のち志願くあ

けたぬん

らきなるん也
んとうしかは

わたり

あま

まぐ建て也勝

乃字と書又ま

あまよと云ん

色わりのあまを

かしくみん

きよふと云

氣姫と云ん

きよふと布

と換那乃ぬの

あまよせと云ん

あらさす

たぬさすく様

なり

けんひ

人のきよふと

あちかく

ちかく也けん

五字有る

けふりのまね

只他まゆ

の事有利

きよふそく

よるまろく取物

也服忌と書

けくらかく

んなくあま

あよりれまの

毛の艶た

たまたま

表と書形り

あひめい

いとふむすへ

あうとく

行そ路し交也

きんころみ

らんハ雨領

のてつきのみ

そむり

けこ志き

うやまふん

けこ志やうた

ゆふ形り

あひせき

中文ままよ物

中まけのひる

とつふなり

けふ里たん

あまされた

おなり

けた

方々あ乃具よ

とるむあり

けふひ

ひのち地とけ

所まうるあり

あそん

家のま次也

けこ馬

やろくゝあ乃

名付利

黙やよやふ

伝菜とあめ

て摩大以伝よ

成てやふ味ん

あつげ

毛付のこほ也

け車

系者の車んよ

くうきりうる

あふと心飯 まげ物よも

於あま

ふ

外わの庵 格乃やーとく
ぬしつ宗 栄と水小入奠

と家や来

あさむろ 名二たんうり

あくまき 欲りぬーあ也

あれとい ふまをこく又
あるをいぬと

わのあまひ也

あろ乃乃 福家ひんあ也

ふれまあ 控らあまし

ありさあんる あふきて

見るへ振放也

又ふ里うん

見家の色あり

あまひんる 右日分同字

あまき 七月之文月と

書物や

ふてはむー きりくまへ

あまをるて まさこ云ん

又打は八てと

まのりふた

ぬいぐるみ 古くやうか

あはせり乃ん

あは

ふちあると 菘の皮あて

織機の衣也又

服着た色衣と

云又菘はそせ

ゆふは衣也

みりよひ ぬいてんと

於也みよひ

あまのふやう

そくは利は

二あひ乃帯 二蓋帯也

のこきよと云

又二あひハ

ちかたきと

ふとの みちとぬ網

也又

ふらはうま 秋菜の菌

ふさめりのここのむとら

ふいふ んあはすは不

言と書

少民の皮衣 てるんのあ

の事はあ

少民のそ ちそあはと

ふとほ

被帯五もめす

也女法入肉乃

夜女湯の法母

きせをく心方

小綿を八袋乃

あつくうまこ

しとほりて

ふとろ紙

たうろ紙也

あま

あまきれやう

なる物うり

あまのた

あま傷也いあ

へ乃妻よな

なるまらく也

今ハ慈也古慈

古慈何と慈し

ぬたこそり

ふあふこと里

あつと云也

ふあふ

私人也母長

ふあふ

大肉庭のり

あつと吹

風吹のよ吹

也所よき也ふ

く年吹も同あ

ふたね乃祓

天児屋根念

玉念乃

ふくたひみ

たろ祓たろ

ふくむる 久不利

第一落むり 法華也云

扱たしんん 二重んん

少乃乃満 生死の満あり

少一終乃月 北月之外待

月と書

ふまのこ 本の志げき也

浮麻瓶

少の系 牡丹也

扱乃乃の松 武隈乃松也

あゝゝゝゝ あゝゝゝゝゝ

の事なり

二系乃紅系へいゝゝゝゝ

いゝゝゝゝ同

ふきどふ 扱きそふん

ふしれほ 扱ゝゝの器也

扱ら片更 扱あとのふく

みかへゝゝ也

扱乃玉少く 扱のさゝり

ゝゝゝゝ久不利

二重鳥 くと繋り鳩

少の海 硯弁素

ふしゝゝゝ 清く死くも也

少のきき鳥 唐之二季鳥

扱つり系 扱也二月草

少一系 ふし採ちり

船にて 舟泊也 船をり

家ともいふ

少勢也 野と云 小家也

いふなり

少くは里 他境也 有なり

柄あり

ふたき草 菘之二季草

ふと笛 神樂乃 笛乃也

みおる形 明王の代に

出現也 易の事

といふ

ぬし店 軒地に付 程乃

小家あり

ふくめ形 所不め 家し

室とて 世 子供なり

こ

ことりえ 少江よ 茶生

て 刀をぬん

あまなる かくのゆく

あはなり

二重なる 有るに くる也

あたるふ かくよ 有利

こやた 少江室なり

こさりの乃 木に 形道也

こまの 島といふ

よくたま 喜 明年の喜

ころたより月也月也

こわきして 摩の木右に

あはれをせよん乃さゆあを

こ満うと 子業人也

こよあふ せ越と書こ

せくなら又ハ

迷玄の候也

あくら お月き車一也

あくら くらめーき

也又物と受り

んゆるひ んゆれしんゆ

おひたきと

いりわを 云りらふ也

んの鬼 行そろーき

んちひて んちあといる

らる小波響 杖の末よ来

きり利

ことりほろひ 七夕よ大

内あて夕や

の花とくお星

ふらーて童乃

おままひ也

小おあ

氷のためー 内裏よ氷を

あから

あからせて年

乃吉

乃吉凶とあり

乃是

乃是を氷扱と

乃小

乃小を素

こま

こまのこもひのしうやく

とこ

とこあるすこ

とぬ

とぬすさめす 葉もた

まぬ

まぬあり

こう

こうりき 文めく宛衣也

くそ

くそこの衣 うく襟うる

ふの

ふのてーい 人の手よ

ふの

ふのうると云ふ

宗長

宗長乃親子女

郎花

郎花と也又こ

のて

のてーい ばの

宛

宛る乃若あは

野栗

野栗 有いり建野栗

積

積貯に積貯也

湖

湖とがめあは

事

事一あり

引

引乃字小あは

す

す琴抄あり

て

て付くとも

勇

勇はくとも云

こくありひ せり乃り也
こくあり 一各之秋なり

濃りなる 車なり
多乃り

おた海 物の精之 器具
と書なり

こほり 葉折て 又あり
むあり

こもと 録ひ ともいひ
なり

こたよ 此の 取也
ありやま ことほくと書

の海也
ふの なる

ら海也
ありとて 官位と辞し

て不仕 車也
ありを 官あり

仕を云 有利
一正乃 縮之也

きぬの 車也
昔やう 也子取

めきたる 古
金少く 梅乃校

と造冠 よさす 公葉

石代(石) 存(存) 仙(仙)

こくありひ せり乃り也
こくあり茶 一れふまの

一各之秋なり
濃うなる虫衣 冬乃り此

車なり
おた海 物の精之木具

と書なり
こほり取 葉折て又あ紙

正あり
こま孫ひ こもひわま

となり
こたよ 此の取也

とほくとも
あほやまー こほくと書

の海音也
ふの海なる

ら海也
あーとて 官位と辞し

て不仕車也
あーを屋うる 尚官あり

仕を云なり
こーさー 一疋乃縮之也

きぬの車也
こたひ 昔やう也ふ取

めきたるこ古
こく海え 金少く梅乃校

と造冠よさすこ葉

石谷の作(家)の可

也又吾祖の系月新葉
とりのくくしんむり
のくむと法なり

かえへ 銀めく菊揚と

地りんじりよ

さすなり

あとらり 説云々

ことしき 右同ふあり

けぬまふ けぬまふ也催馬

赤の者あり

こほ ころりなり

こきよひき 服者老文也

ふとらむり 思押むり也

こりのり 菓子等也花柳

と書らとりのり

及もや十投也

こらり中よ 吳中よ

こたみん けなハなり

こちり ぬほきこちり

うせしとくく志気

也又こちりくく志

とも又本流のくく

きと色り小なり

おけなふ けなきなり

こらりくく志く 志骨

こひの山 けなき乃あり

こと所ひ 琴粒むきく

ていなり

二空うん くら也録乃續

よそひる形り

こちうま 大徳の心なり

んわろも終也

ん乃世終 思立せぬふ也

こはは終録 綱子のうち

くろく

んときめふ きをつふた

終終ふり

けせいの世 二世乃事

と云利

んちうへ 心ありなり

こてのせよ 皇子は誕生

ふりからす基

とうつを終也

終なり

この録ぬる こゝひ孫ぬ

終あり又少ま

と終ひし

んあひの風 此圃乃風の

君し又人の媒

をとひし

終の名 ありき終あり

こひち 泥の中乃水也

遠路 中の人

こひらさ 遠乃る人也

とも里く 出之里江と云

口と云字は續

遠と云利

ありと云

形をわ

つ穂水ふり也

まくたりり

くつき公家り

いさむ公なり

まよふ公なり

公乃様へ さりき

公乃池 中りりとも

き公なり

浅ん世

くは乃月 清き公もや

公乃苑 ちろりり

きのさ世

公乃塵 じさくとも

多りあ

公の面 たまぬ所

公乃宮 人とと

心の麻 ちくなる身也

公乃花 ちくきり

公乃葉 ちくきり

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

あはれの人 我らと人の心

らむは 女の若なりこ
ハ云也

あゝ乃人 初乃事行を
こほむのへ 八月すぬ目

らりまま ありこま引同
こむをぬ也と

まふよぢ人た
おなり

こゝふ忍くま 十月霧和
又急てひと里

たりこ
こむれ下水 けまやうの
わさし水也

ふそめの月 九月乃若こ

本條月

ふの定 じなゝゝあま也

ら乃へ草 菊の袖の下に

あり

あまう人ま ありまをか

るしてぬまは

思人を愛り

忍るとなり

苔草一花 苔草と一葉

くさやうなり

この殿 関白殿を中也

あや あまやへ小家

あまのつみ
こ乃彙の仲 近江湖乃折
あまのつみ

あまのつみ

こ乃彙の仲 近江湖乃折
あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

あまのつみ

吳君天河と
ゆふのり

九月乃授 唐よハ九授と
てゆかく灯と

とくくふ 三空くく
よなり

こと急乃秋 九月の吳よ
也本未此柘大

新方よ仕立ハ
乱句とあり

こと少く えてうゆふん
満入てりき

あり燈と吹也

ゆきハ旁乃妙
早と也又角笛

乃極成地其
沃田あこ小

芥の西とく成
物牙也

こさけ 俄よ造酒あり
あつきの葉 ゆふ葉へ

こらく り後ありよる
唐初来と語ぬ
女あり

あちくても
ありあり入る

この孫茶 景あり

しく其気 省略するなり也

この秋露 氷と云冬也

云と云るなり

且さハ業ハ

ふ小乃片 ふよく乱るり

ふをくさ 公おくさこ入

木乃葉のみ 男乃加さへ

女柳葉小方と

書彩の系水よ

流しをるなり

こまそまほく 人小返り

此人の系るハ

つまはくとも也

こめち月 十月月の月こ

ふをくむ 正いりやう仕

まもゆ小海雪 まんく

と子秋雪なり

紅葉葉 せん日うげ也

木葉乃文 泊漱より

琴引葉 松あり

腰乃志像し 志分し此帯

形あり

あとりなる ことなり

五

こぬき 梢あり本すゑ

こぬき くれと

こぬき 積りあり

こぬき 紐あり

こぬき かくめり

こぬき 詞也こぬき

こぬき 又くハ

こぬき めりきこぬき

同あり

こぬき ぬき

こぬき あり

こぬき 心長なり

こぬき さりり

世本老さく人

てと

云なり

あり 帯とくすぬ寝

あり のり也

あり 糸

あり 袴のす

あり 同

あり 車

あり 物也

あり 云あり

あり 後

あり 比

九折乃露 伝神ノ様なり

らとまふ 林木の採物ニ

らり乃山 人丹おらり凡

あろ 不たとへり也

ひと里しん

こもたたき 山田乃庵れ

あうう 箔あり

乃君なり

こああん 狸の子なり

んささあ 刀形り

こ鳴のく海 系れ名あり

子乃言の在り

あや

こ海ぬれて 神ノ入てく

あよあけ 今ねな者あり

ころとを啼 ころくハ人

也人來と鳴こ

こやまの森 每深乃名あり

あり

あとのきひ 版と云翠下

持と書

ゆ

えあーけき せんあまき也

えんむあき まふの子へ

授をりハ世 主理の授
えんくね えくらへね

面白也

えのろり 鳥髪乃る也

えんまき うらびへま

怨と書

えののり 織物其名也

えひきめ 雲乃あされ

えひくう 蒸地ハ名なり

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

えん乃法人 えん乃新志

ひくくなり

えまひ乃白 瞿麦女の急

三息よ似と也

えふ乃とけ 宿の石あり

えり乃乃ろろ えり乃乃

子也

えひ乃志り 織物れ名也

えひ曲 野とつ小圃の

名曲なり

て

てふ 只と云るなり也

てくらさ とき目か交

車とゆふ

てくるぬい 牛乃不乃所

と京車なり

てまうひ りそあそふ也

てろろろろ 手よふ終事也

てはろろろ 公使くろろなり

てろろア丸 華と云ふて

おろろ書り也

てはさひの泣 是と帯の

あとり

てろろろろ 悪ふ物とい

とゆく也

てはくま 綾ろとさ布也

てもたゆく てるろく也

手なすの里 宇治乃里

て玉持 小有若雨なり

て玉持 拵織極方ちへ

て玉持 ゆくとも海と

て玉持 けふ今利

て玉持 ても休めぬ手

て玉持 へてとも海よ

て玉持 ぶ花子苗とち

て玉持 たりう乳ま 不たん

て玉持 てうこぬ心 ふりとも好ふ

て玉持 へ手おんこし

て玉持 うなるんし

て玉持 手山のみに 林まを中せ

あかや あくやと云ん

あかや あま

あかや せいのきん

あかや 足摺しや鳴と

あかや 伊勢物類よ

あて成人 勝るる人也又

あて成人 よあまをあて

あて成人 とつふし

あて成人 たく弓の身也

あて成人 足たゆく

あて成人 あふこ

あて成人 あた むらひ也恨ん

あしと 何とせしむるは

あり

あつと八つ 幸方と書畏
あつたかた あり頼り

き介わ

あふかく 悪成候と

あふかく あり

あふかくて 海より入つ

あふかくて 波と打入

あふかくて 云送つ

あふかくて 也又呪祖に於

あふかくて 附とつ津事也

あふかくて ありきよし

あやなく びやくなる也

あやなく あり世量

あやなく 白黒も分ぬ

あやなく ぬ綾目と書

あやなく ありひやく

あやなく ぬる車へ

あやなく 車と云也

あやなく たえと又あり

あやなく へすなり

あやなく 野と云へ

あやなく あり河童と

あやなく 雲の所され

あやなく あり

天の原よ橋 下乃川の橋

あさき風 俄に吹満風也

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あさき風 男女乃中

あけまふ 具足の上り

結あり又小

童の事し

不審成り也い

也いふと云

又あを利と

云んを又よ

きり也

思しくくり

ひきき天

あまき

あまき 男子三果よ

三果よ用く

と方奇の時よ

車小素ら

あたる 人の中悪く成

あまき

あまき 丹後り

あまき 只約夕也

あまき 冬助也

あまき 食ふと用又あ

あまき さおけと云

あまき 天人あり

あまき 病ありと云

Handwritten note on a small slip of paper at the top center of the page.

あけまふ 具足の上より

孩結あり又小

童の事なり

あやふく 不審成り也い

やふと云

又あを利と

云んとも又よ

きり也

あやふく 思ふくくり

なきあり

あまむこ ひくき天於

あまきね さいきふん也

あまうけ 男子三果よ成

あたるく 車小素らぬ

あたるく 人の中悪く成

あたるく 丹後乃又あ

あたるく 只約夕也あ

あたるく 冬助也粒食夕

あたるく 食ふと用又あ

あたるく さおけと云と

あたるく あさゆふ

あたるく 天人あり

あたるく 病ありと云

あたるく 病ありと云

あたるく 病ありと云

あめのきよみ 天守あり

あめけりり 天裏と書し

あまのき 我子と玉に

あまのき 我人うらなり

あらしきなり ありくは

ありき事也

あしきめくせ

あかきめ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あまのけ 云外圃官之

あゝぬれ あゝぬれ

あゝいふ あゝいふ

あゝあ あゝあ

あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

元宣 仙宗

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝぬ水 あゝぬ水

あゝのこ あゝのこ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

五三

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あゝあ あゝあ

あえりなる 物よえき様

成ふ之の成ふ之

又あた成ふ其云也

あえめら連 加ろえめら

あくるり之

あまて雅附 多そ加連附

あさへうる 志とあれ

身也へハやとめ字

形り浅くあま又

あさまてうる海と

志や連たる之

あまあろ ひとと云花河

あまて聖海 山蓋めて摺

あまてん 他ふと日本小

異言万葉よ

あまてら ありさ海也

あり海 別之分散は

也又あり連ハ

分別あり

あ乃こり 若小をうる

何利

あてまら ぶくふ神

あてわら乃浦 和衣此浦

何也

あてふり 若丹へ南良

と云花河也又

あせうる かくり換らぬ
也庭家他あそ

あまそき 髪の方そまじ
善物なり

あふふあよ 奥なげふ也
きあり

あけあけ 十又目よる後
浅心なり

あそ路ひやうふ 竹まて
ら介する物へ

あさうまい 糸八供仕し

あせうる かくり換らぬ
也庭家他あそ

あまそき 髪の方そまじ
善物なり

あふふあよ 奥なげふ也
きあり

あけあけ 十又目よる後
浅心なり

あそ路ひやうふ 竹まて
ら介する物へ

あさうまい 糸八供仕し

あまら

人形也三葉ま
て男ふうひて
拍子有り

あつらなめを 布ゆてと

たるまんのり

あま衣

及の衣有り

あはよき

大将存とる者

物あり

あて

芦のゑ懸字よ

よぢ人づるゑ

懸帯也

あひ

あたなる氣

あし

茶碗色の絹也

あらしの世 上古乃すこ

名のよそひ 装束の事也

あまかかくと あたり

あまかかくと かくとあり

あまかかくと かくとあり

らてなり

あしと馬 よき馬

あしと馬 よき馬

あしと馬 よき馬

あしと馬 よき馬

あしと馬 よき馬

あしと馬 よき馬

あしと馬 よき馬

車 乗り

あたりき けつつる

乃んし

わうり 明星乃車也

あさ拍 たくねの

もあり

あへえらん 五時といふ

あゝ海也

あはれもの山 小野よる

惟又亦安山乃

乃事也河内岩舟

天のさくめ まはるや

乃事也河内岩舟

明扶之天祿の名

又説よ天乃岩戸用

乃河の舞姫の名也

あひろくひろ あちこち

乃る也無乃

乃る也無乃

あゝ海 芦乃よの中

乃る也無乃

あち村こ海 光法の子也

亭海野子積里又也

説小河ち村とるり

乃白ハ小正鴨乃振

成羽着の字き多く

あさひこ なく物目此異

若かり

あそぬけよ あけさるく

とらんぬ

わりのぬ屋 棟とせせぬ

小家あり

あげのそが舟 あくくを

とりたる舟也

ありのまきい 有樹ハ入

真乃付何ぞ不思也

死て人と云くは

何を又蟻あとの花

りかく物と引る

あまのいふ

あやひら ぶくくめん

と付さるを云緩遠

るまをさるを云

あま乃まてうき 海去の

いほあきなる

しをきさる神

あちさの 甲ん甲を花夜

也甲ひらの花世云

阿知佐おと書

あくだ川 禁中の塵打と

流正川あり

あまれたく縄 あんた

あふめくく ありきく

あやうー せうかーふん
あふくくと云う

あまきらー へんわり
あひなくと云

あまきらー せきり海
うらふと云

あまきらー きりあひ同
催とん又水乃

あまきらー 海よと
俗語ー東風

とひふ

あまハの祓 下徳圃ハ祓

あまハの祓 小葉とー思
すと初也えあ

あまハの祓 己かまの祓
あまハの祓

あまハの祓 あんるーせ積
あまハの祓

あまハの祓 あまハの祓
あまハの祓

あまハの祓 あまハの祓
あまハの祓

あまハの祓 女房馬れ上

小悪正さうぬ
き形り

ありとありありはききなり
ありとありの年 正月入年乃

らーめ

あかえとりり あやとりりの

名形り

阿とうううり 阿そく

疑と云事也

あいのちか 佛よ供ひる疑

あひあハーく あきま也

あふらん ありなんと云

あひのちか 阿なり

あせまひ 赤板あり

あはくろく 阿巴乃り

あはやくき 催馬赤の一君

あひのちか 阿なり

綾苴とよ成 ありくも

あけ乃いささ ありくぬ

まらるなり

あを竹ふ 四月晦目小解

とねるなり也

あはくろくのちか 四月片

もらりに大内

みうけなり

あはるひ草 人のよりそ

あつらふ也

あまのえむり 海去乃物

いふるりあり

秋さり衣 七夕乃衣也別

の衣といふ

秋さる姫 七夕此東一也

あわそうい 海乃物名也

秋し人 冬の菊あり

天のそくさ 七夕に手向

乃物之天者種

あまのつむぎ 吾等也あまの

正代文同

阿まろ圃 日本へあまの

語同又あまの

正代文

あまのつむぎ 去と云枕詞之

地と云

あまのこへ衣あはるくいや

しと衣之夜の

地其いふこへ

とと衣と云

秋の苅 草苑の東一也

あまのつむぎの姫 七夕なり

あつま男 業平乃名也

あまのつむぎ 緩急の若かり

あゝ坂乃歌 吉乃美必し
あゝ大河 是ハ津國の君

あゝ音子也 仙居 子也おさけき

字竹利

浅きおめ里 乃浅おまこ

あゝ吹 風乃名奈り

あま河り 乃月建と我也

あてき あてなり君へ

正とれあうり

あさく櫻 雲の名へ辰風

おそく船り

天はめくみ 星乃めく見

あひおたのめ あひた乃

むとのんせも

おきおへ

あゝ山 筑波山のこゝ

お互あり

あま乃ちち海 ぞえ天は

ひこのみこく

祓よあひ給し

雨あり

あまえり ぬれをあく也

あまそあ 字露乃車へ

あまの

あまの河 是ハ津國の君

所あり

あまの 子也おさなりき

と云あハお人

字ハ利

浅きかぬ里 乃浅きより

あまの吹 風乃名奈り

あまの河 乃月建と我也

あてき 乃てなり君之

正とれあつた

あまの雲 雲の名ハ辰風

小なりく形あり

天はめくみ 星乃めく見

なり

あひおたのめ 乃あひた乃

むとのんせも

乃きお入

あまの山 筑波山のこ

小なりあり

あまのやち海 乃て天は

ひらのみこ

祿乃あひおし

雨あり

あまのり 乃れを乃り也

あまの乃 乃器乃事乃

あさひのし 乃木之八雲

くしあり

あそ 其地と云ふ

又云新屋あり

あとなきて 秋とありハ

新く心也

あみとり 時多網子て方

明年の夏迄唱

なり

あささ 川よわ新也

あやめ くらり方と云蛇

あゝこほ くらり新のす

あゝらたま ありのなり

あはれ同

天のと里海 ありと云

た乃とや 八目のくみら

あゝあゝ 木綿あり

あゝあゝ 妻と云わ

あゝあゝ そうきあり

あゝあゝ あひすゝも也

あゝあゝ とんぼりえ

あゝあゝ とあゝあゝ

あゝあゝ 信向

乃車と云

あゝあゝ 採糸あり

あゝあゝ 天祿あり乃新

あせひ 所せ平と云ふ

あせひ 也馬のとくへ

あせひ うこり正な

あせひ

あせひ 伊勢乃浦よを

あせひ 又亦之勢村たあふ

あせひ 又ひ川細なりたひ

あせひ うさなまはあふん

あせひ ありたを

あせひ 山 吉野なり

あせひ 天の村合田 天照太孫乃

あせひ 法田之あふん

あせひ 目ふも不換田

あせひ あり

あつまあと 和琴あり

あつまあと 雉ノ鬼と対夫

あつまあと 有り芦矢

あつまあと 目とてくろ

あつまあと 花洲あり

あつまあと 河ノ川い

あつまあと と海方きん

あつまあと 面あーら八也

あつまあと 海こー

あつまあと ぶつかやこ

あつまあと 明なめりえ

あつまあと 麻のすせ人の

手小似と云
又月六月より

吹風あり

天付目つき 天子法位小言

始りて日本祀

あゝ拍 菱の葉素乃子

あひふ 細川車之

秋の文 佐乃湯より也

あゝひく 赤事之又明

有利ありひく目

あゝよめ里又女赤袴

あゝ乃とそなり

あいろこい流 あかたの

山こかた乃山

芥子

あゝめれ乾 可き此意へ

あまのそり草 袂代よ虫

乃損くる因と

押あけと云

あけり 佛袂小物と云

向よりと云世人

るあは上と云

方八ハあを乾

あへもなぐ 名らまると云

袂云物あり

あはれさうさうひ 六位のま

才利善行

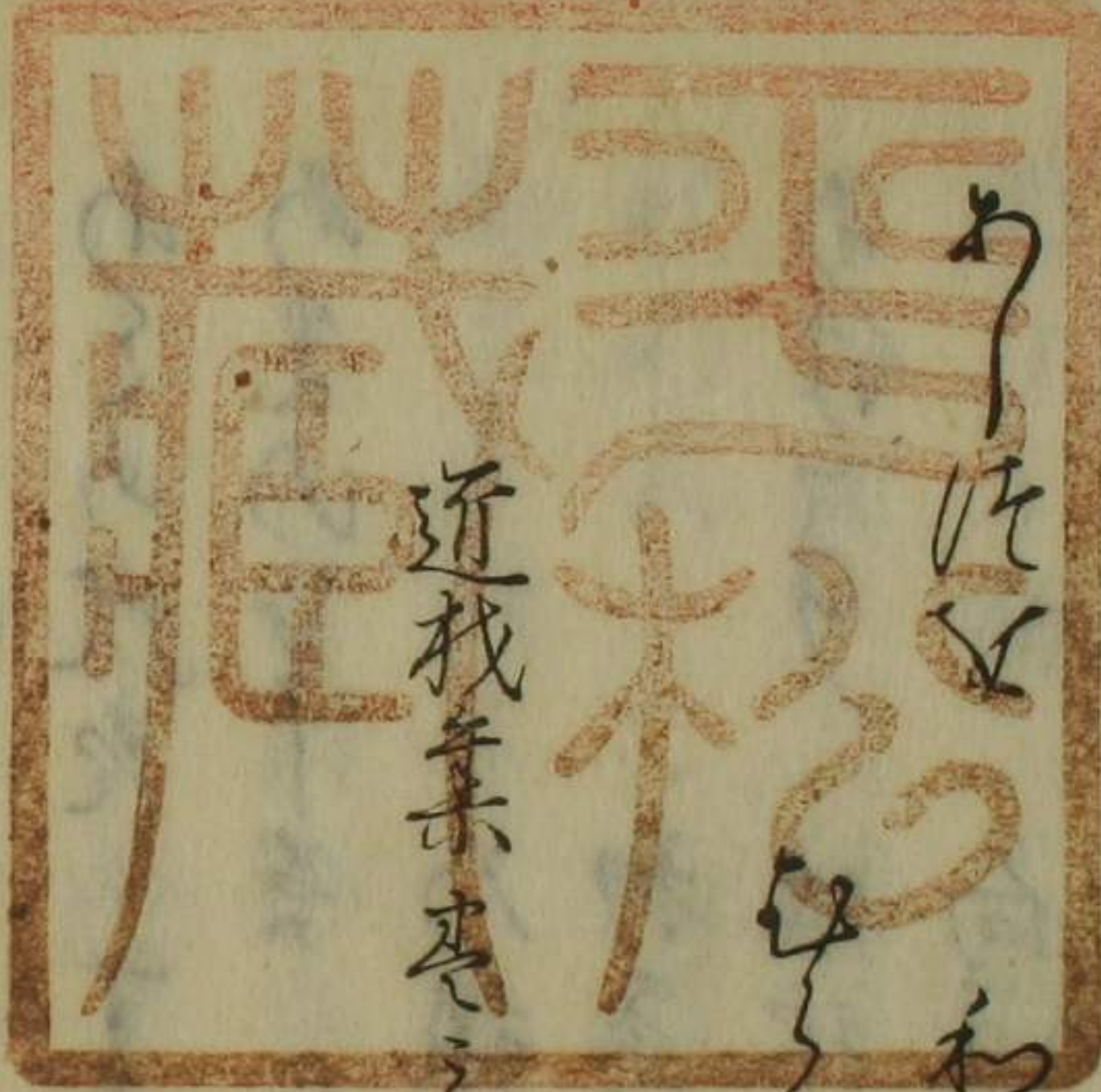
天河のせきれ山 伊賀乃

若雨あり七夕

ろーよせて積

わしは 和琴乃あ

はらこなり



近我業専之仲三終

あはれさうさうひ 六位のま

あはれさうさうひ 六位のま

